

ほおの木算数科プランR1

福島県喜多方市立第二小学校

問いを見いだし、論理的に考え、学び合いを通して、解決する子ども

<算数科における子ども一人一人の学びの高まり>

- 心の中に変容をおこす「問い」が持てる子ども
- 既習のことをもとに筋道を立てて考え、表現する子ども
- 学び合いを振り返り、喜びや満足感、充実感を感じる子ども

<学び合いを創る授業づくりの視点>

【視点1】 問いづくり	【視点2】 ともに思考する場づくり	【視点3】 学び合いの価値付け
① 身につけたい力を明確にした単元構成 ② 知的好奇心を刺激する教材開発・問題提示 ③ レディネスを高める既習事項の確認 ④ イメージを持たせるための課題の可視化	① 教材、学習内容、ねらいに応じた算数的活動の充実 ② 自力解決を促す手立ての工夫 ③ 考えをつなぐ学び合いの場作りと発問の工夫 ④ 思考を助ける言語活動の位置づけ（ノートに書く・説明する）	① 適用問題による学び合いの場の設定 ② ネームプレートの活用 ③ 観点を明確にした振り返りの工夫

【問題提示7つの方法】	【学び合いを支える言葉】	【学び合いを深める発問】
① 条件不足（「もしも～」を引き出す。 ② できる（既習）→できる（既習）→あれ？（未習） ③ 分かる→分かる→迷う（はっきりさせる） ④ 新しい発見を調べたい内容に ⑤ 隠しておいて少しずつ見せる。 ⑥ ゲーム化（学ばせたい内容を考えたいに） ⑦ カードを使って発見やきまりを見つける 小松信哉先生「授業作りのポイント1」より	① 数学的に感じる言葉 「えっ、どうして」「なぜ」「ふしぎだな」「面倒だよ」「すっきりしないよ」「すごいよ」 ② 数学的に考える言葉 「似ている・同じ」「まとめると」「速くできる」「もっと簡単にできる」「きまりはないかな」「もしも～だったら」「例えば～の場合は」 ③ 相手と共感する言葉 「言いたいことは～だよ」「なるほど」「気持ちは分かるけど」「付け足すと」 ④ 考えを変容する言葉 「わかってきた」「○○さんの考えはすごい」「間違いに気づいたよ」「続きが言えるよ」	① 予想 「～さんの考えの続きが分かりますか。」 ② 再生 「～さんの考えを（隣同士）でもう一度話し合いませんか。」 ③ 要約 「～さんの考えはつまりどういうことですか。」 ④ 発見 「～さんの考えのよいところはどこですか。」 ⑤ 推測 「～さんはどうしてこの考えがうかんだと思いますか。」 ⑥ 共感 「～さんの気持ちが分かりますか。」 ⑦ 補助 「ヒントが言えますか。」 ⑧ 伝達 「自分の考え（解き方）を隣の人に伝えましょう。」

<育成したい思考力・判断力・表現力>

- ◇ 問題を解決したり、判断したり、推論したりする過程において、見通しを持ち、筋道を立てて考えたり表現したりする力

<子どもの実態と教師の願い>

- ・ 基本的な技能が身につくにつれ、個人差が大きく、既習のレディネスをそろえる手立てを工夫していく必要がある。
- ・ 学習したことを生かして問題を解決する力が十分に育っていないので、知識・理解の定着を図り、活用力を育てていきたい。
- ・ 学びをつなぎ共有し合いながら、個々の考える力と自分の考えを表現する力を伸ばしていきたい。
- ・ 算数の学習が「分かる・できる」と実感できる児童をひとりでも多く育成したい。